

中国社会主义新农村建設による農村集落の再編に関する基礎的研究 —中国河南省・三里河郷「尚庄新村」を事例として—

正会員 ○王 穎楠*
同 野村理恵**
同 森 傑***

集落	農村住宅	再編
新農村建設	社会主義	中国

1. 背景と目的

中国では、2005年より都市と農村の格差是正を目的とした「新農村建設」が進められており、各地で大規模な農村集落の再編が起こっている。本研究では、河南省三里河郷農村地区を対象として、新農村建設政策による農村集落の形成過程と発展経緯を把握し、再編による空間変化、農民の生活、住み方の変化を明らかにすることを目的とする。本稿では、河南省・三里河郷「尚庄新村」における新農村建設の実態とその特徴を報告する。

2. 研究方法

文献調査より新農村建設の概要と実施経緯を整理した。その上で、2005年からの新農村建設がどのように具現化されようとしているのかを把握するため、2010年9月、河南省・三里河郷「尚庄新村」の事例を取り上げ、現地調査を行った。また、当地政府からの新農村建設に関する資料・文書入手し、マスタープランや土地利用計画などを分析することで、「尚庄新村」の建設状況と開発特徴を明らかにした。

3. 新農村建設の概要

中国では、1978年の改革開放以来、工業化の加速を背景に、都市と農村との経済格差が拡大している。中国国家統計局によると、1978年における都市住民のひとり当たり可処分所得は343元、農村の一人当たり純収入は134元で格差は2.55倍、その後2005年には3.22倍となっている¹⁾。特に、1990年代以後、急速に拡大している。都市と農村間の経済格差を解消するために、2004年政府により「工業が農業を養い、都市が農村を牽引する」という考え方が提起された。さらに、2005年10月の党16期5中全会で採択された第11次5カ年規画(2006～2010年)で、「新農村建設」が重要な歴史的任務と位置付けられ、一連の重要政策措置が提出された。

2006年中央1号文書²⁾「中央共産党中央委員会国務院社会主義新農村建設の推進に関する若干の意見」によると、農村インフラの整備につとめ、社会主義新農村建設にかかわる物的条件を整えるということが掲げられた。

4. 「尚庄新村」の新村計画

4-1 計画案の概要

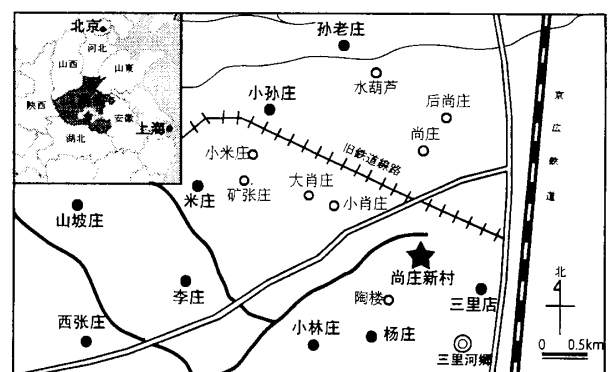
中国社会主义新农村建設の目指すところは、「生産発展、

生活寛裕、郷風文明、村容整潔、管理民主」の20の文字に集約される。農民の生活水準の向上と農村の生活環境の改善が掲げられている。河南省・三里河郷「尚庄新村」は2009年河南省の文書「中共河南省委河南省人民政府開展社会主義新農村モデル村建設の意見」によって計画された。分散している9の自然村の440世帯(人口1618人)を集めて、新たな中心となる場所に建設される新村である(図1)。以前、これらの村は、稲作と出稼ぎを主としていて所得が低かった。そこで、新農村建設を契機として貧困を解消し、近代化を進めるため、2010年始めに計画が立案され、開発業者「深圳恒盈懿丰投資有限公司」と連携して、村と企業がともに建設するモデルを実行した。総投資金額は2.4億元(約30億円)の予定である。

2010年春、8000万元余り(約10億円)を投資して440世帯が入ることができる住宅440戸の着工が始まった。一人当たり平均延べ床面積が61.67平米、上下水道、電気、ガス、通信、車庫などが揃った農村新居である。2010年10月末に竣工予定であったが、2011年3月現在も工事が継続されている。さらに、300戸の住宅を建設しており、予定によれば2011年末に竣工される。

4-2. 開発の特徴

河南省・三里河郷では、2010年1月に「尚庄新村開発基本計画」を打ち出した。マスタープランの方針として、土地の集約と合理化、住宅、工場、公共施設、緑地の増加を図り、農民収入を上げると説明している。具体的には、以下の4つの特徴を持っている。



★は新村の所在地 ●は旧村の所在地

図1 「尚庄新村」の位置と新村の再編計画模式図

(1) 土地の再整備

1990年代、上海市は「遷村並点」という農村計画理念を打ち出した。分散している自然村のいくつかをひとつに集中させ、農村の生活環境の都市化を、効率的に図ろうとする計画理念である。これが、社会主義新農村建設の影響で、全国の農村地域に広がった。「尚庄新村」の計画案にも、この理念が採用されている。計画前に、9の村が分散しているため、土地利用の効率性が問題視されていた。集約化により、390 畝（ム一、約 260,000 平米）の余剰地を生み出す。その一部分を農地に転換したり、工場開発用地も構想されている。

(2) 居住環境の統一的計画

「尚庄新村」は、520 畝（ム一、約 346,667 平米）の開発面積で居住区と公共建築区に区分される。総建築面積は約 24 万平米である。新村の中心には病院・幼稚園・老人ホーム・運動場などの公共施設が配置され、新設水路に沿って景観緑地が整備される。居住区の中には、低層・中層・高層住宅が区画整理される（図 2）。図 3 は中層住宅に属する 3 階建て住宅の例である。

郷政府は、企業と連携してこの宅地開発を進めている。開発業者は全国で入札を募り決定された。原則的に農民が自由に入居できるが、その際、村民委員会に申込書を提出し、郷政府と「建新拆旧」契約を結ぶ必要がある。当該契約は、新村への入居と引き換えに、旧村の住宅を取り壊し、宅地と農地が回収されることに同意するという内容である。回収された土地は区画整理され、新村入居後、原則改めて農地として分配される。2010 年末までに 80% の農民が契約を結んでいる。新村の住宅は、政府と農民の契約によって、一人 40 平米が無償提供される。それ以外の追加面積は 600 元 / 平米（約 8,000 円）となり、開発業者に支払う。一方、旧村以外の居住希望者は、開発業者が設定する額で購入する。現時点での販売予定額は 1200 元 / 平米（約 16,000 円）である。

(3) 新産業の形成

新村の今後の発展と農民の収入増加を保障するために、村の中に新たな産業を育成することが新農村建設の主要なプロジェクトとして位置づけられている。具体的には、三つの産業がある。第一は植物オイル産業である。河南恒盈会社の資本を引き入れて、年間生産量 15 万トンの植物オイル産業をつくり、500 人の雇用機会を創出できると構想する。第二は、物流、農業観光業、コミュニティサービスなどの第三次産業を発展させる。第三は外部資本と連携して革新的な技術を導入し、新作物の生産という現代農業を通じて、農民の所得拡大を目指している。

(4) 農民生業の転換

上述とも関連し、農民の収入構造の転換が図られている。9 の村のうち、2 村の農民の農地が回収される予定である。60 歳以上の高齢者は年金制度で保証されるが、若い人は出稼ぎや新産業への従事により生活することが構想されている。それ以外の村は、農地が保留されるため、農業を継続する。

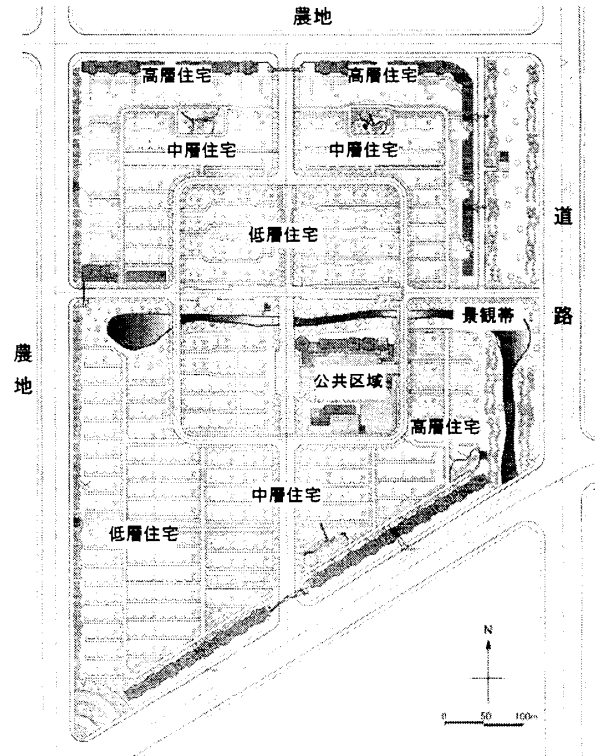


図 2 新村区域計画図

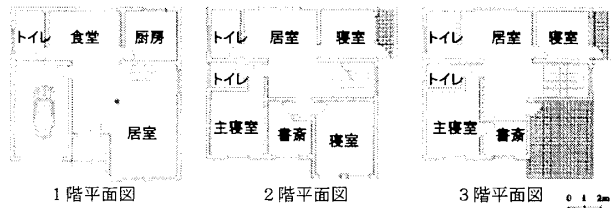


図 3 中層住宅の平面図例

出典：図 2 と図 3 は「尚庄新村」マスタープランをもとに加筆

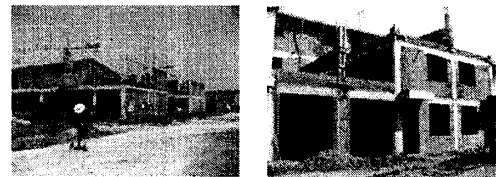


写真 1 と写真 2 は 2010 年 9 月撮影

5. まとめ

本稿では、新農村建設の概要と尚庄新村の基本計画について把握した。今後は、まず、土地利用計画や建築計画などの資料に基づいて、新村の計画原則と理念を把握する。さらに、農村集落の空間的な変化に関して、計画前後での住み方、生活・生産空間の使われ方等の分析を行う予定である。

- 【注】 1) 中国国家统计局のデータより。
 2) 中国共産党中央委員会が各年の最初に発表する綱領的かつ指導的な位置付けの文書。

* 北海道大学大学院工学院 修士課程
 ** 北海道大学大学院工学研究院 助教・博士（学術）
 *** 北海道大学大学院工学研究院 教授・博士（工学）

Graduate Student, Graduate School of Eng., Hokkaido Univ.
 Assis. Prof., Faculty of Eng., Hokkaido Univ., Ph.D.
 Prof., Faculty of Eng., Hokkaido Univ., Ph.D. in Eng.